

■教育行政のポイント

注目される“国際バカロレア”

菱村 幸彦

先ごろ、2015年から国際バカロレアの教育課程が日本語で実施することができることとなったというニュースが流れた。メディアの扱いは小さかったが、グローバル社会に活躍する人材の育成という観点から、このニュースに注目したい。

ディプロマ・プログラムが重要

国際バカロレアとは、一般には耳慣れない言葉かも知れない。英語で「International Baccalaureate」と呼び、通常「IB」と略されている。国際バカロレアは、主としてインターナショナル・スクールの卒業生に大学入学資格を与える制度として、1968年にジュネーブに国際バカロレア機構が設けられて始まった。国際バカロレア機構は、国際バカロレア校の認定、共通カリキュラムの作成、試験の実施、資格の授与などを行っている。

国際バカロレアは、子どもの年齢に応じて、①初等教育プログラム(3歳～12歳)、②中等教育プログラム(11歳～16歳)、③ディプロマ・プログラム(16歳～19歳)に分かれる。このうちディプロマ・プログラム(DP)が最も重要で、大学入学資格は、DP課程を修了し、統一試験に合格した者に与えられる。

国際バカロレアの教育では、英語、フランス語、スペイン語が公式言語となっており、これまで日本語による授業は認められなかった。このため、わが国の学校が国際バカロレア校の認定を受けることは難しかったが、今回、国際バカロレア機構と文部科学省の合意により日本語で授業を行うことができるようになったので、これからは国際バカロレア認定校を目指す学校が増加するだろう。

日本語授業が認められるのは、世界史、政治経済、

生物、化学等で、英語、数学、芸術等は、これまでどおり英語で行われる。日本語による授業に伴い、2017年から国際バカロレア試験も日本語で行うことが可能となる。

グローバル社会の人材育成

国際バカロレア認定校は、世界に3,586校あり、日本国内では24校が認定されている(2013年5月現在)。わが国の認定校は、ほとんどがインターナショナル・スクールで、学校教育法に基づいて設置された学校は、加藤学園暁秀中・高校、玉川学園中・高校、立命館宇治中・高校、東京学芸大学附属国際中等教育学校など6校のみである。

国際バカロレアについては、ハーバードやケンブリッジなど著名大学をはじめ、約2,000の大学が入学資格を認めている。わが国でも「国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの」について、大学入学資格を認めている(学校教育法施行規則第150条第4号)。

政府のグローバル人材育成推進会議は、2012年に出した審議のまとめで、国際バカロレア認定校またはそれに準じた教育を行う高校を5年以内に200校程度に増やす目標を掲げている。これを受け、文部科学省は、2012年度からモデル校を指定して、国際バカロレアの普及に乗り出している。

また、文部科学省は、海外で活躍する「グローバル人材」育成に取り組む高校「スーパー・グローバル・ハイスクール」(仮称)を指定し、海外有名大学への進学を積極的に促す構想を打ち出している。学校教育の新しい流れとして、国際バカロレアの動向に注目する必要がある。

(ひしむら・ゆきひこ=(財)学習ソフトウェア情報研究所 理事)

●管理職選考合格に必要な知識・法令を1冊に集約!

『2014 学校管理職 完全要点整理』

【監修】菱村幸彦 【編集】学校管理職研究会 A5判 432頁/定価 2940円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)